

# 黄斑疾患の 診断と治療の最前線

**日時** 平成26年11月15日(土) 12:30-13:30

**会場** 第12会場 (神戸国際展示場 1号館2F 展示室2B)



**座長** 湯澤 美都子 先生 (日本大学)

近年の黄斑疾患の診断と治療は、加速的に進化しています。診断においてはOCTの進歩と普及が、治療においてはVEGF阻害薬をはじめとする新薬の登場が主たる要因であることは、皆様ご承知の通りです。

最近ハイデルベルグエンジニアリング社から3つの異なる波長を持つスペクトラリス・マルチカラーが発売されました。マルチカラーは走査型レーザー検眼鏡(SLO)装置で、3つの異なる波長ごとにSLO眼底像を撮影し、その波長特性から網膜の浅・中・深層の情報を得ることのできる装置です。

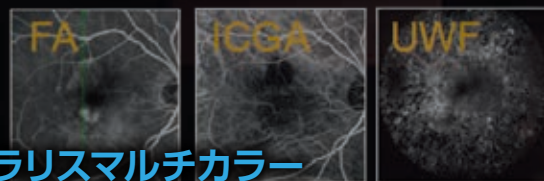
マルチカラー画像とOCT画像を組み合わせることによって、黄斑疾患の診断に新たな活用が出来るのか?日常診療でマルチカラーを駆使しておられる2人の先生、鹿児島大学の園田祥三先生には大学臨床医の立場から、尾崎眼科の尾崎志郎先生には開業眼科医の立場から、診断と治療についてお話し頂きます。

また、自称PCVオタクの日本大学の森隆三郎先生には、オタクの立場からPCVの診かたについてお話し頂きます。本セミナーが黄斑疾患の日常診療の一助になれば幸いです。



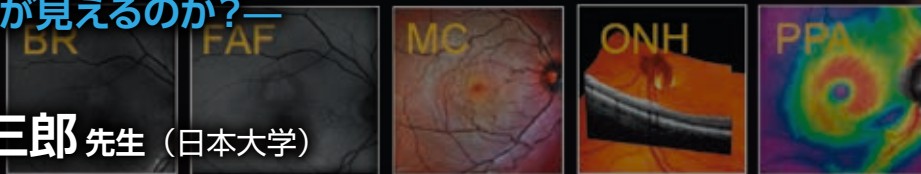
**演者** 園田 祥三 先生 (鹿児島大学)

スペクトラリスマルチカラーと黄斑疾患  
外来診療での新たな活用法



**演者** 尾崎 志郎 先生 (尾崎眼科)

黄斑疾患の新たな診断手技：スペクトラリスマルチカラー  
—見えないものが見えるのか?—



**演者** 森 隆三郎 先生 (日本大学)

ポリープ状脈絡膜血管症 オタクの診かた

